

地域の歴史ロマン物語創造による「ネットワーキング観光開発」構想

九州の各地域にはそれぞれ豊かな歴史とロマンが眠っている。全国的に有名な観光スポットがなくても、小さな歴史ロマンを「ネットワーキング」(つなぐ)することによって大きな観光開発・魅力に発展させることは不可能ではない。

大規模開発や投資が困難な時代にあって、地道に郷土の魅力や歴史を発見し、つなぎ、新しい物語を創造することにより、より大きな観光開発がどの地域でも可能であると思われる。

たとえば、福岡では商業大都市としての魅力が中心となっているが、その歴史は豊かで、志賀島の金印から太宰府、鴻臚館、元寇防塁等をネットワーキングすればさらに魅力的な歴史ロマン観光が可能となるだろう。(第4回夢アイデアコンテスト応募作品「博多の過去・現在・未来を回遊する<博多夢ロマン街道>構想」平成19年参照)

さらに、鹿児島県出水市は「鶴」が有名であるが、大規模な武家屋敷群や薩摩街道の跡等も魅力的な観光スポットであり、これらをネットワーキングすることにより、より魅力的な観光開発が可能である。(第5回夢アイデアコンテスト応募作品「カード式住民参画法によるまちづくりー薩摩出水つる歴史街道構想」平成19年参照)

現在、私は佐賀市で仕事をしているが、有名な吉野ヶ里歴史公園だけでなく、九州支配の重要拠点であった肥前国府(大和町惣座、7世紀~10世紀)や名護屋城、伊万里、有田、葉隠れ、日本初の大砲鑄造、江藤新平等多くの豊かな歴史ロマンが存在する。これらをネットワーキングすることにより、より魅力的な観光開発が可能である。(佐賀県の歴史図解参照)

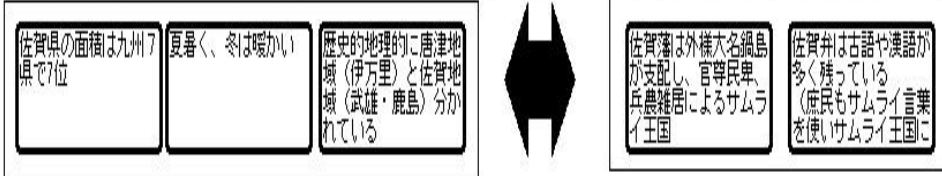
以上のような「ネットワーキング観光開発」は、大きな投資も不必要で、地域住民やNPO等の地道な調査発掘、歴史ロマンの物語を創造する知恵とアイデアさえあれば実現可能である。「ネットワーキング」とは、人・物・金・情報・地域・時間をつなぐことであり、アメリカのように「もうひとつの日本」を形成する運動として今後ますます重要になるキーコンセプトである。

私がこれまで応募してきた「まちづくりの提案」は、第6回の「九州まちづくり移動大学構想」(平成20年)を含めて、すべてこの「ネットワーキング」というコンセプトに基づいている。具体的な手順としては、まず郷土の歴史を学び、遺跡を発見し、歴史ロマン物語を創り上げ、産官学民と連携して実現することになる。その際、重要なことは「よそもの・わかもの・ばかもの」等異質な人々をネットワーキングすることである。発見や創造はその異質な交流から生まれるはずである。

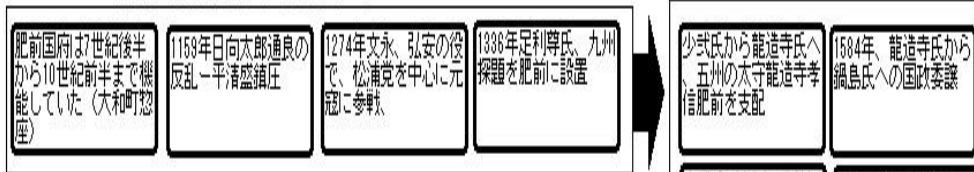
佐賀県の歴史

作成日: 2011/6/7
 場所: 企画室
 情報源: 「佐賀県の歴史」山川出版、「幕末維新と佐賀藩」毛利敏彦中公新書
 作成者: 梶原 宣俊

佐賀の面積は九州で一番小さく、歴史地理的に唐津と佐賀に分かれている 佐賀は、官尊民卑・古語・サムライの伝統が残る



肥前は九州支配の重要拠点であった



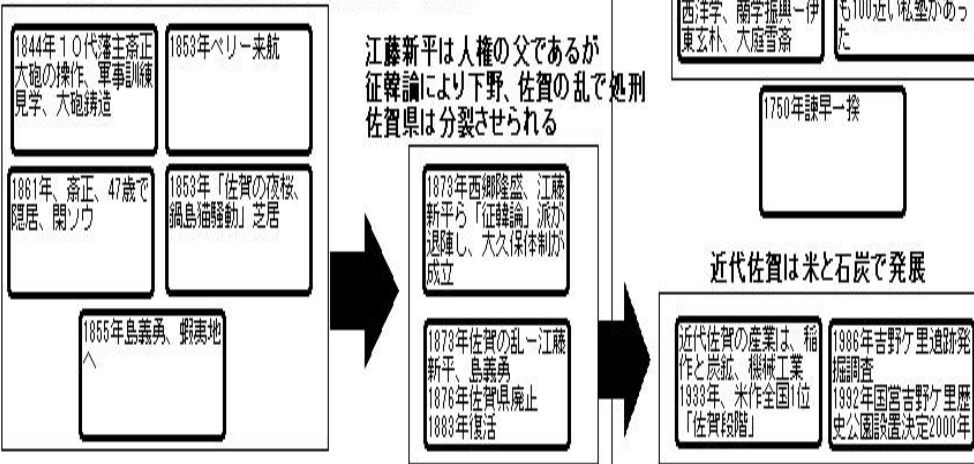
秀吉の朝鮮出兵で陶芸等活性化する 唐津藩・3支藩に分かれる



教育熱心で「葉隠れ」武士道の哲学を生んだ



鍋島閑そうは、日本で初めて鉄製大砲を铸造し明治維新の原動力となる



近代佐賀は米と石炭で発展



明治維新の光と影